

ひろせ はな
廣瀬 華さん
(朝日町)

キラリ★ 話題の「ひと」



○プロフィール
茨城県筑西市出身
令和4年4月下野新聞社入社
現在、下野新聞社佐野支局記者

佐野の記事を 下野新聞の一面に

廣

瀬さんが佐野市に住み始めたのは今年の3月下旬からのことだそうです。今回は、5月末に話を伺いました。

廣瀬さんは子どもの頃からお母さんの勧めで、新聞記者という仕事を意識していたとのこと。中学時代の部活では、全員が顧問の先生と、活動の振り返りをするノートやりとりがあったそうです。そこで国語の先生でもあった部活の顧問の先生から一人にはない観点で物事を見ている。いろいろな見方をしていて、自分の考えを文章にする力がある。将来、新聞記者はどうか」と言われ、お母さんの勧めと先生の言葉から新聞記者を含め、文章を書く仕事をしたいと思うようになったとのこと。その後、高校時代には演劇部の脚本を書く活動、大学時代にはサークルでの動画作成やラジオを録音する活動を通じ、文章を書く楽しみ、文章で表すことの重要さ、いかに分かりやすく書くかの大切さを痛感し、新聞記者になったそうです。

現在、新聞記者として、新聞で伝えることは大きな意味を持つと

考えているそうです。それは、新聞が発信する情報の正確性です。

記事が掲載されるには、何度も取材を重ね、入念に裏取りをし、何重もの目を通していくことが必要になるとのこと。佐野支局に赴任した初日から取材をして記事を書くことになり、その記事を読んだ市役所の方から声をかけてもらえたそうです。記事を書くことでいろいろな人から反響があり、うれしい反面、多少プレッシャーを感じることもあるそうですが、初心を忘れず、目の前にあるものをがむしゃらにこなしていきたいと話していました。今後は、佐野の人の優しさや街の良さを、下野新聞の一面に掲載してPRすることが目標だと話していました。

新聞記者への熱い思いを語ってくれた廣瀬さんのこれからが楽しみです。(市民記者 尾島民江)



▲記事を作成する廣瀬さん

市長からの

メッセージ

早いもので今年も半分が過ぎ、暑い夏がやってきました。皆さんマスクはどうしてますか？ 厚生労働省や文部科学省から着用を推奨すべき場面が明確化され、特に熱中症防止の観点から屋外などマスクが必要な場面では、マスクを外すことが推奨されました。なかでも子どもたちについては、体育の授業や部活動そして登下校時にはマスク不要と具体的な例を挙げて紹介されており、改めて熱中症が命に関わる重大な問題であることが示されました。

これまで2年半にわたり人前ではマスクを着けてきましたので、マスクを外すことに抵抗がある方もいると思いますが、周りで不必要な場面でもマスクをしている人がいたら「外して大丈夫だよ」とお声掛けをお願いします。ただし、基本的な感染症対策としては手洗い、密の回避、マスクの着用に変更はありませんので、会話を行う場合や、身体的距離が確保できない場合は、引き続きマスクの着用をお願いします。

さて、今回は障がい者スポーツについて、少しお話ししたいと思います。大橋町にある市民活動センター「ここねっと」で視覚障がい者団体の皆さまに長年使用されておりましたサウンドテーブルテニス卓球台が更新されました。サウンドテーブルテニスとは音の鳴るボールを転がして打ち合う卓球競技であり、いちご一会とちぎ国体に併せて本県で開催される、いちご一会とちぎ大会(第22回全国障害者スポーツ大会)でも正式競技の卓球の中で取り入れられております。全国障害者スポーツ大会は、障がいのある方の社会参加を推進することを目的として開催される国内最大級の障がい者スポーツの祭典となっており、佐野市ではバレーボール(精神障害の部)が行われます。

いちご一会とちぎ国体と併せて盛り上げていきましょう。

金子 裕

今回の表紙 「大学ラグビー早慶戦」令和4年5月29日撮影

いちご一会とちぎ国体ラグビーフットボール競技のプレイベントとして、市運動公園で大学ラグビー早稲田大学対慶應義塾大学の招待試合が開催されました。





フードドライブ活動

市 内31支部で構成される佐野市女性防火クラブでは「家庭から火を出さない」をモットーに火災予防や、防火思想の向上を図るなど消防団と連携しながら活動しています。

5月6日(金)、同クラブは支部長の協力を得て「ひのようじん」と書かれた除菌ウエットシートや、段ボール14箱に入った260点余りの食料品、日用品などを市社会福祉協議会へ寄贈しました。寄贈は今回で2回目となり、持続可能な開発目標(SDGs)に基づいた生活困窮者支援などの一環として実施されました。除菌シートは、困っている人の支援へ火災予防啓発も兼ねてほしいとの考えから提供しました。

コロナ禍が続き、思うような活動ができない中で、前回に引き続きのささやかな活動がクラブ員の皆さんに定着しつつあるようです。
(市民記者 葛貫郁子)



▲寄贈の様子

氷室小学校で閉校記念運動会が開催

5 月28日(土)、氷室小学校にて閉校記念運動会が開催されました。運動会には、在校生のほか、卒業生である中学生や高校生も一部の競技に参加し、徒競走や障がい走、応援合戦のほか、同校恒例の一輪車演技などが披露されました。同校は令和5年3月で閉校となるため、今回が最後の運動会ということもあり、児童たちは一生懸命、競技に取り組んでいました。また、運動会の終盤には閉校記念事業としてバルーンリリースが行われ、色とりどりの風船が大空へと舞い上がりました。



▲運動会の様子

佐野弁 ばんでい

農家の人たちは
労力の助け合いを
テマツカリといった

田植えや稲刈りなど農作業でもっとも忙しい時期を農繁期といいます。この時期は猫の手も借りたいほど忙しく、その忙しさを少しでも和らげようと、組合内の農家は互いに労力を交換し合いました。組合内に農家が5軒あれば、雇ったり雇われたりして協力し合います。

組合内の農家で労力を交換して行う作業は、皆が一緒になっで行うので、普通「共同作業」といいますが、方言ではこれをテマツカリといいます。ほかにテマツカイ(エ)、テマカイ(エ)、テマツケなどともいいます。テマツカリは、イシゴト・イッコイ(エ)シゴトなどともいいます。言い方は地域や年齢によってまちまちです(イシゴトについては、平成19年5月1日「広報さの」に掲載したので説明を省きます)。

テマツカリは一般に田植えや刈り取りなど農作業に関することばのように思われますが、それ以外にも、テマツカリに関する仕事はいくつもあります。「屋根葺き」と「木の葉さらい」の例を挙げてみましょう。

おがら葺き屋根の葺き替えもテマツカリです。佐野は昔から麻の名産地で、麻の茎を「おがら」といいました。昭和30年ごろまでは、おがらで葺いた屋根がほとんどで、瓦屋根はあまり見当たりませんでした。おがら屋根は方言でクズヤネといい、その家をクズヤといいました。また、毎年堆肥になる落ち葉をかき集める「木の葉さらい」がありました。これもテマツカリでした。

(市民記者 森下喜一)

